

【テーマ展示／相互貸借特集展示(小規模展示)】
 2025年8月25日(月)～12月21日(日)
 2025年度サテライト展示Ⅱ
 「祈りの世界と食事―食べる聖書物語―」
 [場所]南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

2025年10月4日(土)～2026年1月25日(日)
 2025年度相互貸借特集展示Ⅱ
 「祈りの歌の泉をたずねて―グレゴリオ聖歌のあゆみ―」
 [場所]國學院大學博物館(東京都渋谷区)

2025年10月20日(月)～12月24日(水)
 2025年度サテライト展示Ⅱ
 「降誕 Nativity―クリスマス特集展示―」
 [場所]西南学院大学図書館

2025年12月22日(月)～2026年4月下旬
 2025年度サテライト展示Ⅲ
 「クリスマスのおはなし―受胎告知から東方三博士の礼拝まで―」
 [場所]南島原市原城図書館

2026年1月25日(日)～5月下旬
 2025年度相互貸借特集展示Ⅲ
 「異国へのまなざし―鎖国体制下の日本が見た唐人―」
 [場所]國學院大學博物館

【イベント】
 2025年12月6日(土)
 せいなんワークショップ
 「クリスマスカードを作ろう!」
 [場所]西南コミュニティセンター2階会議室
 ※定員20名／事前申込制

※西南学院大学博物館は、2025年4月より一時閉館中です。
 再開館の時期は未定です。

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。
 各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

学芸員就任あいさつ

10月に学芸員・助教に着任しました宮川由衣と申します。20世紀のフランスで、教会に同時代の生きた芸術を取り入れるべきだと主張し、宗教芸術の刷新を推し進めたドミニコ会士マリー＝アラン・クチュリエ神父(Marie-Alain Couturier O. P., 1897–1954)を中心に、20世紀のキリスト教美術について研究しています。また、キリスト教美術における聖像をめぐる問題に関心があり、ヨーロッパからもたらされた聖像が禁教下の日本で独自の変容を遂げた例として、かくれキリシタンに伝わる「マリア観音」と呼ばれる白磁像についても調査しています。

今年の夏には、ポーランドのクラクフを拠点とするICC(International Cultural Centre, 国際文化センター)によって企画されたセミナーに参加し、ポーランド各地の教会、遺跡、そして多様な博物館を訪ねました。「黒い聖母」の名で知られるチェンストホーヴァのヤスナグーラ修道院の聖母子のイコンをはじめとし、今日に至るまで、キリスト教信仰が人々の暮らしと文化に息づいていることを実感しました。案内役を務めてくださった美術史家と話をすると、日本のかくれキリシタンの「お掛け絵」にも関心があると言い、大学博物館が交流の場となり、広く国内外にその研究成果を発信していくことの重要性を再確認しました。東西の様々な地域におけるキリスト教文化に関する資料をコレクションの核とする本館の特色を活かした展示や研究会を通じて、西南学院大学博物館がこれまで以上に豊かな集いの場となるよう、尽力いたします。

学芸員 宮川 由衣



ICCによるセミナーの様子。写真は1145年に設立されたと伝わるロント(Lqd)の旧シトー会修道院。1921年にサレジオ会の所有となり、建物が修復され、教育施設として利用されている。

編 集 後 記

厳しい夏が一転し、寒い冬がやってきました。2025年4月から「一時閉館」となりましたが、活動を振り返ってみてと決して「閉じていた」訳ではなく、館外での展示やワークショップなどで市民の皆様と関わることができ、楽しい時間を過ごすことができました。皆様が祝福と平和で包まれる新年となりますように。

学芸研究員 鬼束 芽依

西南学院大学博物館

NEWS

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

Vol.
55
2025.12

トレドのイルデフォンス 『至福なるマリアの処女性について』(パルマ写本・複製)

Ildefonsus of Toledo's *De Virginitate Beatae Mariae* (Parma Codex, Facsimile)

2010年／モデナ(イタリア)／Il Bulino／複製本／縦16.0cm×横23.0cm

原資料:1090-1100年頃／フランス／作者不明／羊皮紙に彩色／パラティナ図書館蔵

イエス・キリストの母であるマリアは、純潔を保ってイエスを身ごもり、地上に生んだとされています。しかし、歴史上その純潔性を疑う人々も存在しました。650年頃、スペインのトレドで修道院長を務めていたイルデフォンス(Ildefonsus Toletanus 607頃-67)は、そのような人々を非難し、聖母への賛美を捧げるため、『至福なるマリアの処女性について』(De Virginitate Beatae Mariae)という論文を著しました。

本資料は、その論文の装飾写本です。左ページには、マリアの下に跪くイルデフォンス本人の姿を見ることができます。彼は剃髪し、ベネディクト会士が着用する黒い修道服を身に纏った姿で描かれています。中央に描かれたマリアは立派な玉座に座っており、その姿は母としての一面よりも、権威的で荘厳な雰囲気が強調されたような印象を与えます。また彼女は、正しい教えを広めるようにと、右手の指でイルデフォンスに指示を出しているように見えます。実は、本資料の中でマリア本人が描かれているのはこのページのみとなっています。右ページには、マリアを示す銘文がラテン語で刻まれています。この他にも、全部で222ページにも及ぶ写本の全体に、イルデフォンスの議論の様子や論文の内容が記されています。

装飾性の高さもまた、本資料の魅力を高める一つの要素であると言えます。全てのページに金や銀、紫などの多様な色彩が用いられ、華やかな印象を与えます。文字や図像を囲むフレーム部分には、幾何学的な模様や植物の文様が繰り返し描かれています。この様式は、特に西欧中世に見られる、東方美術の影響を受けたイタリア美術(イタロ・ビザンティン様式)と、ロマネスクの混合様式であることがうかがわれます。文字の書体は、カロリング小文字体と呼ばれる当時のヨーロッパで統一的に使用された文字体です。このような様式の融合は、資料が制作された11世紀末頃のヨーロッパ世界における、文化の多様性を示唆しています。

学芸調査員 柳川 桜子

<主要参考文献>

大貫隆・宮本久雄ほか編 『岩波キリスト教辞典』 岩波書店、2002年

秋山聰・田中正之監修 『西洋美術史』 東京印書館、2021年

下園知弥編 『聖母の美―諸教会におけるマリア神学とその芸術的展開』 花乱社、2019年



西南学院大学博物館
SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2-92

(西南コミュニティーセンター内)

TEL 092-823-4785 FAX 092-823-4786(博物館事務室)

ホームページ <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum>



Youtube 西南学院大学博物館



@seinan_museum



@seinan_museum

聖書植物だより

降誕祭と関係の深い聖書植物をご紹介します

イエスが降誕したとき、東方から来た3人の学者が会いに行き、それぞれ贈り物を捧げました。それが「黄金」、「乳香」、「没薬」であり、それぞれ象徴的な意味を持っています。

「黄金」は神の現存、その輝きを示す装飾として祭具に用いるなど、古くから貴重な物として大切にされてきました。聖書ではイエスの王としての尊厳を表します。「乳香」はニュウコウジュの樹液から作られ、古くから鎮痛、解毒などの効果を持つ薬として用いられてきました。また、古代エジプトではミイラ作りに利用されました。聖書では、イエスの神性と礼拝を象徴しています。「没薬」は香水や薬として使われ、ムラサキゴジアオイから作られるラブダナムと没薬樹から作られるミルラの2種類があります。両方とも聖書に登場しますが、幼子イエスに贈られたのはミルラの方です。死者に油を塗る儀式でも用いられるため、聖書ではイエスの死を預言しているとされています。これら「乳香」、「没薬」は「黄金」にならんで貴重で高価なものでした。

ニュウコウジュは2号館前の温室で育成しています。降誕の物語に思いを馳せながら、ぜひ聖書植物園を回ってみてください。

学芸調査員 村田 早紀



ニュウコウジュ／乳香 花期：6～7月 聖書箇所：マタイ福音書2：9～11



ニュウコウジュから作られた乳香(西南学院大学博物館所蔵)

連携展示紹介

2025年度 西南学院大学博物館サテライト展示III

クリスマスのおはなし —受胎告知から東方三博士の礼拝まで—

会期／2025年12月22(月)～2026年4月下旬

会場／南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

日本では季節のイベントの一つとして楽しめることの多いクリスマスは、キリスト教の重要な祭日でもあります。日本では「降誕祭」とも呼ばれ、キリスト教の救い主とされるイエス・キリストの誕生(降誕)をお祝いする日です。本展示では、聖書に書かれている降誕にまつわるお話について、西洋の様々な地域や年代の資料を通して紹介します。また、サンタクロースのモデルとなった聖人のお話や、クリスマスツリーにまつわる意味など、クリスマスに関する豆知識も紹介します。

時禱書零葉「受胎告知図」※パネル展示

1500年頃/ヨーロッパ/作者不詳/羊皮紙に活版・彩色、メタルカット一葉、額装/西南学院大学博物館蔵



ワークショップだより

2025年8月23日(土)・24日(日) せいなんおでかけワークショップを開催しました

当館は長崎県南島原市と研究協力関係にあり、連携活動の一環として毎年8月に南島原市でせいなんおでかけワークショップを開催しています。今年度は2025年8月23日(土)に深江公民館で「もんきりでうちわを作ろう!」を、翌24日(日)に口之津図書館と原城図書館で「素焼き調ねんどではにわランタンを作ろう!」を開催しました。

「もんきりでうちわを作ろう!」では、浮世絵から江戸時代の夏の過ごし方や涼み方を学び、その後色和紙でもんきりをして、うちわを飾り付けました。複雑な形を切ることに苦戦する様子も見受けられましたが、工夫を凝らしながら思い思いに制作を楽しんでいただきました。

「素焼き調ねんどではにわランタンを作ろう!」では、はにわや古墳、古墳時代について解説を行った後に、素焼き調ねんどを用いて、はにわランタンを制作しました。「小さいころからはにわを作るのが夢だった」という声もあり、楽しみながら創意工夫にとんだ作品を作り上げられていました。

2日間を通して学びながら楽しく作品を作っていただけたのではないかと思います。今後のワークショップ情報については、当館のホームページをご確認下さい。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学芸調査員 松尾 優里



2025年10月2日(木)・6日(月) 留学生別科ワークショップを開催しました

西南学院大学には留学生別科があり、世界各国の協定校から毎年150名ほどの留学生が学びに来ています。留学生別科では、日本語のほかに日本文化や経済などの日本研究に関する科目が提供されています。

今回は、「漫画アニメに見る日本のコミュニケーション」のクラス、「漫画アニメに見る日本社会」のクラスを受講している留学生のみなさんを対象として、「くずし字でお名前キーホルダーを作ろう!」を開催しました。まずは、明治時代の尋常小学校の教科書を見ながら、クイズを交えつつ「崩し字」について学びました。その後、崩し字のお手本を使って、キーホルダーを自由に制作しました。このクラスは漫画・アニメ作品の『鬼滅の刃』を題材に学んでいるとのことだったので、『鬼滅の刃』に登場するさまざまな日本の伝統文様のお手本も用意し、自由に装飾していただきました。

最初こそ賑やかでしたが、途中からは集中して制作しており、素晴らしい作品が出来上がっていました。トースターでプラ板を縮ませる作業は責任重大なので、博物館スタッフも緊張しながら一点一点縮ませました。今回の体験が、日本での留学生生活の思い出となっていれば嬉しく思います。

学芸研究員 鬼束 芽依

